

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	36819
事業名	生活困窮者等福祉対策費					
評価担当課	所属名	保)総務部 保護自立支援課				
	課長名	向瀬 茂樹	担当者名	医療担当、指導担当	電話番号	211-2992
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	戦略ビジョン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	
事業の性質	<input checked="" type="radio"/> 経常経費	<input type="radio"/> 臨時的経費				
	<input type="radio"/> 内部管理	<input type="radio"/> 法定経費	<input type="radio"/> 指定管理			
事業内容	実施形態	<input type="radio"/> 直営	<input type="radio"/> 一部委託	<input type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 補助助成	<input checked="" type="radio"/> その他
	目的	短期	③同下 ④生活習慣病等の早期発見により重症化を予防			
		長期	①被爆者等の福祉向上②施設入所者の安心・安全な生活の維持③市長の葬祭執行④保護受給者の健康意識の向上による健康維持⑤貸付金原資の貸付⑥救護施設等における新型コロナウイルスの感染防止			
取組内容	①生活困窮者福祉事業助成費:被爆者の会へ補助金を交付 ②各種民間社会福祉施設補助金:施設事務費の民間施設給与等改善費相当分を補助 ③行旅死亡人:行旅死亡人に該当する場合等に市長が葬祭を執行する。 ④特定健康診査事業費:生活保護・支援給付受給者及びホームレスに本市国保等と同様の健診を実施 ⑤生活福祉資金貸付事業費:要保護世帯向け不動産担保型生活資金の事業原資を貸付 ⑥救護施設に対し、新型コロナウイルスのスクリーニング検査キットを支給					
実施結果	①90千円の補助金交付により団体の活動を予定通り実施できた②各施設へ補助金を交付③108件の葬祭3,824千円、65件の検案1,065千円を実施した④健保未加入の受給者・ホームレス約720人に対し健診を実施した⑤32,000千円の貸付を行った⑥救護施設に対し、新型コロナウイルスのスクリーニング検査キットを支給					
事業実施における工夫点	④医療機関にポスターを掲示しているほか、生活保護受給者へ配布する『保護のしおり』にも当該事業について記載している。また、ホームレスに対しても支援団体と協力し、制度の周知を行っている。					
対象者	②⑥救護施設④生活保護受給者等	開始	0年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	②札幌市要綱等③行旅病人及び行旅死亡人取扱法、墓地・埋葬に関する法律④健康増進法⑤生活福祉資金貸付制度要綱等					
他都市の状況	①③④⑥他都市においても同様の事業を実施している。 ②本市の独自事業であり、他都市では行っていない。 ⑤他都市では貸付金ではなく補助金として同内容の事業を行っている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費	71,798	67,344	71,543	46,436
うち特定財源	29,732	25,765	25,691	5,948
人工	0.0	0.0	0.0	0.0
人件費	0	0	0	0
計(事業費+人件費)	71,798	67,344	71,543	46,436
事業費の内訳	令和3年度決算	①90千円(補助金) ②25,047千円(あけぼの荘給与改善費等) ③4,889千円(行旅死亡人にかかる葬祭費等) ④6,440千円(特定健診にかかる委託料等) ⑤32,000千円(要保護世帯向け不動産担保型生活資金貸付原資) ⑥2,675千円(救護施設新型コロナウイルススクリーニング検査キット購入費用) その他:402千円		
	令和4年度予算	①90千円(補助金) ②26,280千円(あけぼの荘給与改善費、産休代替職員費) ③8,191千円(行旅死亡人にかかる葬祭費等) ④6,875千円(特定健診にかかる委託料等) ⑤5,000千円(要保護世帯向け不動産担保型生活資金貸付原資) ⑥なし		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	義務的経費のため指標になじまない			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	①団体が勉強会や啓発活動など熱心な活動を行うことが出来た。 ②社会福祉施設の経営安定と利用者の安心・安全な生活を実現できた。 ⑤対象者が生活保護を受けずに暮らすことができた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	①会員の経済状況は必ずしも恵まれたものでなく会費だけでは6割程度しか賄えず、4割程度を補助することは適切である。 ②補助金交付により社会福祉施設の経営安定に寄与しており適切である。 ⑤貸付原資が枯渇しないようにする必要があるため、適切である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	①被爆者等の福祉向上に直接貢献する活動を行っている団体であり、補助金により活動費を補てんすることで活動が実現しており、担い手、手法ともに適切である。 ②補助金交付により経営安定を図ることで利用者の安心・安全な生活を実現できており、担い手・手法ともに適切である。 ⑤貸付原資の貸付により、対象者が貸し付けを受けることができ、担い手・手法ともに適切である。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	①熱心な活動の一助となっており、適切である。 ②利用者の安心・安全な生活を実現できており適切である。 ⑤対象者が生活保護を受けずに暮らすことができ、適切である。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	②ここ数年は入所人員が下落傾向にあるため、経営基盤の強化に向けて、入所対象者のニーズの見極めや施設の優位性の更なるPRが必要と考える。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	②引き続き区保護課等への事業説明や管外への周知活動などを行った。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	②引き続き救護施設の機能や役割が適切に理解され、必要な利用に結びつくための活動を実施し、入所者増加を図ったため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 ②利用者の生活維持のため現状を維持④同程度の健診実施のため現状維持			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他		見直し効果額	5,000 千円
	⑤実施主体である北海道社会福祉協議会の収支状況を鑑み、余剰金が認められたことから、来年度の貸付は行わず、令和6年度以降に改めて貸付を行う予定。				